

L(サードパーティーロジ

スティクス)業者ではあり

ません。トラック事業につ

いては下請けの会社に丸投

げということはしません。

当地域に本社を置くユニー

さまをはじめ他の小売業

流通業さまからも期待して

いただいているのは、物流

センター運営を自社で行

い、輸配送も自社で行うた

め、より深いオペレーション

や素早いハンドリングが

がワンストップで行える企

業は全国的にも少ないと自

負しています。それから、

規模感も必要になってきま

すが、当社は285台のト

ラックを保有しています。

また、他の業者さんと一緒に

仕事をするにしても、わ

れわれはいちげんのスポット

ト業者さんを使ったりしま

せん。当社の考え方を理解

した専属の業者さん、しか

も、自社便を8~9割持つ

た業者さんとしか取り組ま

ないため、このあたりが他

の3PL業者さんとは違い

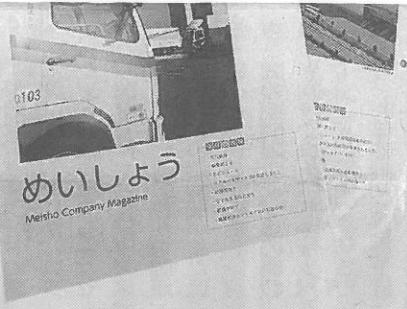
ます。これは品質を維持し

4月から社内報を発行し、社員の家族、パートナースタッフとのコミュニケーションに役立てている

し、作業が单

化」というのは必然になつてくると思ひます。自動化することで、今まで熟練者ができなかつた仕事も、外国人の方ができるようになつたりするでしょう。自動化でミスも少なくなる

——今後の展望は。



# て考える

ていくための一番のキーポイントのように思います。インポートのようになります。このようないことはお客さまから求め効率を求めるにしても、自社便がないとなかなかそれを実現できません。例えば、自社で物流センターを運営して調達物流までを手掛けた場合、荷物を検品して全部やつておいて、と言えます。これが違う会社同士だったら、荷物を置いて帰るよ、なんて言えません。センターの仕事を配達の仕事を分けて済むことは重要です。配達とセンターを同じ会社が受け持つては口一コストになります。

## ——物流センター開発・

運営への考え方。

加藤 最近では物流総合効率化法(物効法)に沿って、物流センターを開発している。読んで字のごとく、物流を効率化しないと建設許可が下りないものですが、例えは、二つのセンターを一つにしてCO<sub>2</sub>を削減するということなどをちょうど今、現在進行形で取り組んでいます。それから、遮熱塗料、ソーラー発電を導入して、環境配慮や労働環境改善を考えたセンター開発を考えています。加えて、「自動化」というのは必然になつてくると思ひます。自動化することで、今まで熟練者ができなかつた仕事も、外国人の方ができるようになつたりするでしょう。自動化でミスも少なくなる

——これから物流に求められるることは。

加藤 この先トラックドライバーが14万人も不足するというところなので、本当に根本的な仕組みを変える時期に差し掛かっています。例えば、効率化を考えるなら、車両の回転率を上げることで総台数を減らすことになり組まなくてはなりません。ただし、できる限りという条件が付きます。回転率が上がるということは店舗での荷受け作業も大変になるので。しかし、そのようなことも考えにくくでしょう。それから、人手を減らすことはやはり大事です。今でいうと、パーキング車両でカートラック配達が主流ですが、ヨリ一層取り組んでいかなくてはならないと思います。

今後は恐らく、物流センターから、店舗のオペレーションまで考えた物流を構築しなければならないでしょう。われわれの物流センターでも人が必要だし、店舗のオペレーションでも当然人が必要なので、そこまで考えなければ全体最適にはなりません。どちらかが自分都合を言い出してもより良い物流にはならないので双方が緊密な連携をとつていくことが大切です。

——今後の展望は。

加藤 特に地元である中部に根を張つていくことに変わりませんが、最近は首都圏にも注力し始めているので、この二つのエリアを重点的に取り組んでいこうと思います。特に中部については各御さんがこの2、3年のうちに物流再編を図りそうなので、その物流再編に向けて当社も準備を進めています。

4月から社内報を発行しています。社員の家族に向けて業務内容を分かりやすく伝えていくために、また、パートナースタッフさんとのコミュニケーションにも役立てていきます。他にもホームページの充実、スマートフォンのアプリケーションも開発しようとしています。労働集約型の泥臭い部分も当社の強みですが、片方でプランディングを意識しています。より一層、「選ばれる会社」になるために、見せ方・伝え方にこだわっていきたいと考えています。